

第2回 特別支援教育コーディネーター連絡会議

8月27日(火)、「第2回 特別支援教育コーディネーター連絡会議」を行いました。第1回に引き続き、東部教育事務所 特別支援教育指導員 梅村佳絵先生を講師にお迎えしました。市内小中学校の特別支援教育コーディネーターの先生方が参加しました。

(1) 指導講話

① 保護者とつなげるために必要なスキル



梅村先生

「学校として…」 「私たちが…」と、**学校を主語に**、どのような支援をしていくかを話します。そのためには、**日頃から管理職と支援の方針を共有しておくことが必要**です。その子の支援は担任一人でなく、学校で行う姿勢であることを保護者に示しましょう。



指導講話 特別支援教育コーディネーターとして保護者と「つなぐ・つながる」

② 個別の教育支援計画の作成と活用



梅村先生

子供が安心して学ぶためにも、支援の内容や方法、効果を、進級・進学先に**切れ目なく確実に引継ぐ**ことが大切です。

合理的配慮が円滑に引き継がれた事例

【小学校】	【中学校】	【高等学校】
小5のときに、読み書きの検査から、読み書きのスピードが極端に遅いことが分かった。キーボード入力練習により、授業で聞き取ったことを記録するために必要な入力スピードが身に付いたことから、小6より、授業でのパソコン利用を開始した。	小・中学校間で引継ぎ会を実施した。中学校でも、授業でのパソコン利用を継続することとした。入学後すぐに、定期考査でのパソコン利用を開始。 ※公平性を担保するため、予測変換・ネット機能をOFFに設定することとした。	高校入試に際して、中学校での定期考査で行われた配慮と、個別の教育支援計画を添えて申請。合格後、本人と保護者の合意の下、個別の教育支援計画を引き継いだ。高校の授業や定期試験においても、中学校と同様の配慮が行われている。

- (2) 演習 (特別支援教育コーディネーターの役割「つなぐ・つながる」を体験 架空の事例を通して)
架空の事例：低学年、授業立ち歩き、他児とのトラブルも多い、注意されることが多く問題行動(叩く、暴言等)が増えている、家庭でも同じ様子が見られる。

関係機関でつながる視点

特別支援学校のセンター的機能(地域のセンター校)とつながり、よりよい支援方法を助言いただくことも視野に入れました。おうちの方には、学校以外にも相談窓口があることをお伝えすると安心されるかもしれません。



演習 ~連携マップをつくろう~

校内でつながる視点

特別支援教育コーディネーターとして、本人が何で困っているかまずは知るところから始めたらよいと考えました。職員間で、教室以外の様子についても共有したいです。その後、支援を検討したり共通理解したりする場も設定するのはどうでしょうか。スクールカウンセラーとも連携し、本人が思いを話せる時間があるといいですね。

(3) 情報伝達・情報交換

研修後半は、情報伝達・情報交換の場をもちました。

情報伝達では、富山県教育委員会主催の研修会に出席された先生から、研修会内容を報告いただきました。

情報交換では、LITALICO 教育ソフト「まなびプラン」活用について確認を行いました。



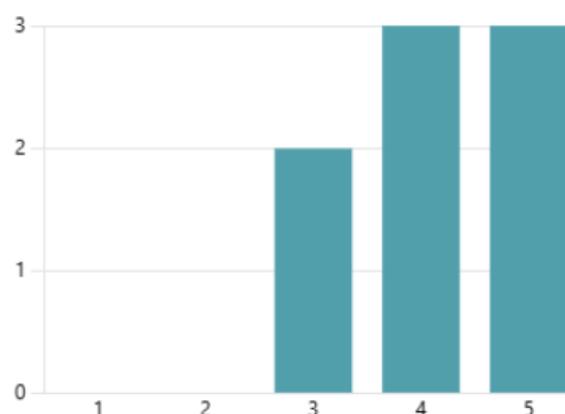
情報伝達 県の研修会に参加して

事後アンケートより (8名回答)

3. 本日の研修の満足度を星の数でお答えください。(0点数)

[詳細](#)

4.13
平均評価



感想	評価
コーディネーターとしての学校でのつながりは意識してきましたが、保護者と直接つながるのは担任が多かったです。だから、もっと保護者ともつながり、家庭、学校、関係機関と連携していきたいと思いました。演習では、先生方からたくさんの情報交換ができたので、今後は様々な機関と繋がりを大切にしたいです。リタリコについても、今年作成をして来年度以降に活用していきます。	5
学校の内外をつなぐ役割を果たしていけたらと思いました。知能検査に関する誤解についての話も心に残りました。保護者に正しい情報提供をしたり、教職員間の連携をとったりできるように努めたいです。	5
子供たちを支援するためのいろいろな機関があることを知りました。フリースクール、放課後等デイサービス等、民間のものも含め、現在、市内の子供たちが利用している機関にはどんなものがあるのか知りたいと思いました。	3
小中学校の先生方で意見交換をしたり、情報交換をしたりできるのは、とてもよい機会となっていて、ありがたいです。	4
連携マップの作成を通して、特別な支援が必要な児童に対する学校内外の支援体制づくりの大切さを確認することができてよかった。	4

<p>まなびプランの導入で相当に難儀しているのが分かりました。その論旨が、私が昨年度に声高に主張していたことと一緒だなあ…と思いました。「慣れるから頑張っ」としか言えませんでした、本当に頑張っほしいです。</p> <p>「まなびプランで全員分つくりました！やってみたら思ったより簡単でした！とほとんどの先生がおっしゃっていたので、よかったなあ…と思いました。ただ、まなびプランの本質であるアセスメントは「大変だからやってない」とおっしゃっていたので、もう少しだなと思いました。もう少し、というのは「アセスメントを複数回、または複数人がやってみてから、まなびプランの良さが分かる」と私が（自校の先生方が）思っているからです。</p> <p>まなびプランの最も大きい良さは「これまで年次の大きい先生のお家芸・伝統芸能・一子相伝の様相」の教育支援計画・教育指導計画が初任の先生であっても「ある程度の客観性と根拠をもって一から書ける」というところにあります。初任の先生などはアセスメントで何とか計画をお立てになりますし、特支コとしても見直し（修正）指示を、根拠をもって示しやすいです。複数の目で客観的に困っている子供を理解するためにも、データのコピーで毎年の計画を立てる教員が減るよう、アセスメントの大事さを自校の先生方には、引き続きまなびプランで伝えていきたいと思います。</p> <p>まなびプランの推進のためには「小中連携のデータ移行」を担保するのが一番早いと思います。さらにセットでアセスメントを強制するのがよいと思います。「同じ教員がアセスメントしても学期が違えばこんなに評価って変わるんだな、ましてや担任が変わったらアセスメント評価は全然変わるんだな、子供って成長してるんだな」と（時間はかかると思いますが）分かって頂ける先生が、少しずつ増えるはずですよ。</p>	5
<p>コーディネーターとして「つなぐ・つながる」を参考にしたい。先生方と情報交換の機会となった。ありがとうございました。</p>	3